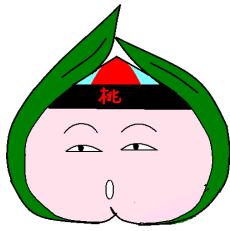


## News



ドラマ「アイリス」、モモイも  
6モードで応援しています

### ●「アイリス」放送開始

西ヶ原字幕社が吹き替え翻訳を担当する、イ・ピョンホン主演のドラマ「アイリス」が4月21日からTBSで放送スタートしました。韓国ドラマとしては初めて、地上波の夜9時台というゴールデンタイムで放送されるこの作品。総製作費15億円の壮大なスケールに、圧倒されること請け合いです。

なお、CS・TBSチャンネルで放送中の字幕版も字幕社にて翻訳しております。あわせてお楽しみください。

### ●映画「チョルラの詩」で技術デビュー

アールグレーフィルムが製作した日韓合作映画「チョルラの詩」、その字幕翻訳と、劇場公開用マスターへの字幕挿入を字幕社が担当しました。SSTで作成した字幕データをTIFFに出力し、AAFファイルで同期する方法で、編集ソフトはファイナルカットを使用しました。

主演はキム・ミンジュンとソ・ドヨン。6月12日からシネマート六本木で劇場公開されますので、ぜひご観覧ください。エンドロールに「字幕翻訳・字幕挿入 西ヶ原字幕社」と出ますので、最後までお見逃しなく。

字幕翻訳と字幕挿入、弊社に一手にお任せいただければ、お安くできます。同様のご依頼、お待ちしております。

### ●林原、NHK ラジオ・ジャンルの外部ディレクターに採用される

NHKが世界18カ国の言語で日本の情報を伝えるラジオ・ジャパン。その韓国語放送の翻訳チェッカー兼収録ディレクターとして、弊社代表の林原圭吾が4月から週2回、NHKに出向いています。

林原は中学生の時から、KBSの日本語放送を愛聴しており、卒業文集の将来の夢の欄には「海外放送に携わりたい」と書くほどでした。今回、まわり回って子供の頃の夢がかなった格好です。不在中はお不便をおかけしますが、ディレクティング中  
ご容赦願いますと共に、ラジオ・ジャパンに皆様の関心を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。放送はNHKのホームページからも聴くことができます。番組にゲスト出演。  
韓国語で質疑応答



### ●冬季求人終了、4人を採用

8回目にして最後の定期採用となります2010年冬季求人が終了し、呉陽希、鷹野文子、趙アルム、孫旻辰の4人が採用となりました。目下、スクーリングの真っ最中です。

今後は年1回、「西ヶ原字幕社映像翻訳スクーリング」を開講し、広く受講生を募り、そこで優秀な成績を修めた人を社員として採用します。開講は10月、受講料は5万円程度を予定しています。

定期採用は、西ヶ原字幕社を特徴づける制度のひとつでしたが、今回4年の歴史に幕を下ろすこととなりました。総括の意味で、過去の採用試験の問題や選考の基準などをホームページ上で公開することを考えています。興味のある方は、乞うご期待。

### ●ホームページでの公開終了

■現在、ホームページ上で一般公開しております字幕社ジャーナルですが、今号4号をもってホームページ上での公開は終了、次号からは希望者に郵送というスタイルになります。送付を希望される方は、お手数ですが、下記アドレスにお名前とご住所をご一報ください。希望者が百人単位にならない限り無料ですので、どなた様もどうぞ遠慮なく。今後も字幕社ジャーナルをよろしくお願ひいたします。

E-mail [info08@jimakusha.co.jp](mailto:info08@jimakusha.co.jp)

## 座談会：語り継ぐ第一次韓国ブーム(前篇)

韓流ブームの到来により、埋没しつつある第一次韓国ブーム。風化の危機を感じた清水由希子と林原、そして林原の大学の後輩で、㈱KNTVの社員である堀越亮平が、今号と次号の連載で、その体験を語り継ぎます。

**林原**：清水さんとは、字幕社で会う15年前に、はからずも同じ空間を共にしていたことが、最近分かったんですね。

**清水**：学生時代に私が学園祭で企画したイ・サンウン(※1)という女性歌手の野外コンサートを、林原さんが観に来てくださっていたんです。彼女の歌は、のちに「NEWS23」のBGMに使われもしました。小規模な大学だけに本当に予算がなくて、ろくに宣伝もできなかったのに、東京の学生だった林原さんにまで情報が届いたとは驚きです。

**林原**：初めて乗る私鉄で、金沢八景まで行きましたよ。僕もどこで聞きつけたか覚えてないんですが、多分アジア文庫(※2)じゃないかな。あの頃はお金かけて宣伝しなくても、我々の出没スポットが決まっていた、そこにピラ置いとけば、大体宣伝になった時代でした。だって、そういうイベントがあったら、まず行くでしょ？

**堀越**：行きますね。結局、必死に宣伝しても、適当に宣伝しても、結果は同じ、みたいな。(笑)

**清水**：それはありましたね。少数派であるがゆえの義務感というか。私が通っていた韓国語教室の仲間も、ほぼ全員来てくれましたから。

**林原**：ほぼ同じメンツなんだけど、時々はじめましてな人がいて、それがまた、同じ匂いのする人なんですよ。そう考えると、今は不便ですよ。どこに知るに値する情報があるか、どうすればそれを欲している人に届けられるか、とんと分からなくなりました。

### ■第一次韓国ブームとソウルオリンピック

**清水**：周りから「韓国に興味を持ったきっかけは？」って聞かれる時、どう答えています？

**林原**：僕の場合、通っていた中学校が韓国の学校と姉妹校の縁組をして、向こうに行く機会があって、そこから興味を持った。たまたま自分の置かれた環境で、自分で選びとったものだと思っていました。ところがある日、とある人に「君、何年生まれ？」って聞かれて、「75年です」と答えたら、「88オリンピック世代だね」って達観されたんです。

**堀越**：僕も、オリンピック前後に日本でしきりに報じられていた、民主化を求めるデモのニュースは、原体験としてありますね。

**林原**：あの頃テレビや新聞で、韓国の街並みとか文化とか、もろもろ露出が多くなった。おそらくそれが、「韓国ブーム」という言葉のはしりだろうと思います。うちの中学の姉妹校縁組だって、それと無縁ではなかっただろうし。そう考えると僕はまさに、第一次韓国ブームの落とし子といえます。

**清水**：私が韓国に目を向けたのは、大学に入ってからなので、92年ですね。初めて在日コリアンのことを知り、それまでの無知を恥じる気持ちと、若者特有の正義感がかきたてられたのを覚えています。アンテナをめいっぱい広げて、いろんな人に会ったりイベントに参加したりしましたね。そんな中で知り合った人は、気まじめで勉強熱心なタイプが多かった。市民運動に参加していたり。

**堀越**：92年なら、僕もほぼ同時期です。中学の時、友達にイギリスのロックを紹介する音楽番組の録画を頼んだんです。ところが彼は曜日を間違えて、「アジアNビート」(※3)という番組を録画してしまっただけ。せっかくだからとそれを見たら、たまたま韓国のソテ

ジ・ワ・アイドル(※4)が紹介されていたんです。

**林原**：因果だ(笑)。

**堀越**：ホントですよ。好きだった筋肉少女帯が「ガロ」(※5)に影響受けて、そこで漫画描いてる根本敬が「ティープ・コリア」(※6)書いてて、で、間違えて撮ったビデオにソテジでしょ？これはもう、因果に身を任せるしかないなと。

**清水**：林原さんは、韓国に興味があることを、周りからどう見られていましたか？

**林原**：変なやつだと思われていただろうけど、アホ扱いはされなかった。韓国は、戦後処理問題を含め、いろいろな社会問題と切り離せない、知識人のフィールドという感覚がありましたから。今思えば、第一次韓国ブームは知識欲に支えられていました。

### ■「MUST」な感覚

**清水**：堀越さんと林原さんは、東京外大朝鮮語学科の出身ですが、同時期に在学していたわけじゃないんですね。

**堀越**：受験の下見で上京した際に、職安通りで「コリアンミュージック」(※7)という雑誌を買ったら、そこに林原さんが主宰するロックバンド「ソウル牛乳」のメンバー募集が出ていた。見た瞬間、外大に入ったら真っ先にこのバンドを訪ねようと心に決めました。新入生歓迎ライブで、当時はもうOBだった林原さんを紹介されて、その日のうちに後任に指名されました。

**清水**：朝鮮語学科ならではの出会いですね。

**堀越**：いいえ、朝鮮語学科がみんな韓国に関心あるわけじゃないです。他学科を志望していたけれど、やむなく朝鮮語学科に流れてきた人も多く、冷やかでしたよ。「ティープ・コリア」を読んでいるのも林原さんだけだし。

**林原**：でも、学年に1人が2人、モノが違うのがいる。あちこちで辛酸をなめるうちに、そういう人を探し当てていく嗅覚や方法論が鍛えられるわけです。その先はイ・サンウンのコンサートと同じですよ。冷やかな視線を背中に感じつつ、「俺はこんなに韓国で楽しんでる」と声を上げる、そして、同じような声に呼応する。すでにこちら側の人にとっては、「当然行くでしょ」って世界。新しく出会う人も、間違いない人たち。そういう「MUST」な感覚こそ、第一次韓国ブームの資源じゃないかと思います。

**清水**：確かに。そんな私たちが、韓流ブームを迎えて思うことについては、次回、語り合うことにしましょう。(第5号に続く)

(※1) 88年に韓国でデビュー。アイドル的な扱いに反発し、東京やNYで音楽活動を展開する。

(※2) 神保町所在。アジアの書籍を専門に扱う老舗書店。

(※3) 93~5年にフジテレビの深夜枠で放送されていたアジアのポップスを紹介する番組。

(※4) 92年にデビューした韓国の3人組グループ。96年に解散するまで一世を風靡した。

(※5) 青林堂が発刊していた漫画雑誌。日本のオルタナティブ・コミックといわれる。

(※6) 湯浅学、根本敬らがソウル五輪前の韓国を周遊して書いた紀行文。一部では優れたエスノグラフィーと評価される。

(※7) 98年頃に創刊された韓国音楽専門誌。2号で廃刊。

## 部活紹介 ① 翻訳部

西ヶ原字幕社には6つの部署があり、字幕社の未来のために、様々な取り組みをしています。そんな各部署をリレー式で紹介するコーナー。第1回は翻訳部です。

字幕社の売上の大半を占める翻訳業務、その品質向上に努めるのが翻訳部の役目です。その仕事は、①各プロジェクトの進捗状況の把握、②「西ヶ原基準」の増補、③新人教育の3つに大別されます。①としては日々の納品チェック、および月1回、各プロジェクトの統括を集め、進捗状況を確認する「統括会議」の進行があります。統括会議の際には「試写」と題し、毎回誰かがプレゼンテーションをして、皆で品評しています。②としては、スポッティングや字数、体裁などを統一するための基準、および表記を統一するための表記基準を増補しています。③については新入社員を対象にしたスクーリングを、3ヶ月12回の講座制で行っています。最終回には修了試験と題して、受講生が10分程度のプレゼンテーションを行い、スタッフが採点し順位をつけます。

目立たない、地味な仕事も多いですが、その成果が表れるのが、新しい人が作業に加わる時期。右も左も分らず戸惑う新人に、「基準を見ておいて」といえば、リライト時にケアしなければいけない箇所が減り、訳文のチェックに集中できます。

字幕社では、ひとつの作品を2~3人のチームで翻訳しますが、このような基準、あるいはスクーリングで培われる共通の認識がないと、訳風や訳語、表記や体裁などにブレが生じることは避けられません。私たちにとって難しいことは、よそにも難しい——こうした日々の取り組みが、他社との差異化につながると考えています。

最後に、今年から翻訳部に大きな任務が与えられました。「西ヶ原字幕社・映像翻訳スクーリング」の開講です。これまでは社内で、無料でスクーリングをしてきましたが、今年からこれを社外に、有料で行うことになり、現在テキストの書き直し作業を行っていますが、お金を払う価値があるものにして、明日の字幕社の一員となる、優秀な才能たちの集う場にしたいと思います。

## MY MAKER

西ヶ原字幕社のスタッフたちが、自らの人生において影響を受けたものをリレー式で紹介するコーナー、第1回は4月に採用になった呉陽希です

四半世紀ほどの人生の大半を費やしてもなお情熱が冷めやらぬもの、それが朝鮮舞踊だ。

本稿における朝鮮舞踊というのは、朝鮮が日本統治下にあった時代に「半島の舞姫」として世界中で名を馳せたダンサー崔承喜(1911~1969)が1950年代に朝鮮半島に古くから伝わる伝統舞踊(ドラマ「ファン・ジニ」で踊られているもの)を基に理論化、体系化したものを指す。

朝鮮舞踊を本格的に始めたのは9歳の頃。学校で「舞踊部」に入部したのがきっかけだ(日本各地の朝鮮学校のほとんどに舞踊部があり、女子の登竜門的なクラブとなっている)。初役は「アリ」。童話舞踊「개미와 매미(アリとセミ)」と銘打たれた作品で、イソップ寓話の「アリとキリギリス」を舞踊化したものだ。

この作品を皮切りに私の舞踊人生は始まった。学生時代には年に1度行われるコンクールに向けて、汗と涙(たまに血も)を流した。大学でも舞踊サークルに所属し、現在は愛好会に参加している。

これまで踊ってきた作品は数知れず。花や雪の精、鳥にはじまりムダン(巫女)までその幅は広く、チャンゴやブク、バラ、ハンバル、扇、剣などの伝統楽器などの小道具さばきもひと通りマスターした。今となっては曲さえ思い出せない作品もあるが、不思議と初役の振り付けだけは完璧に覚えている。

日本で生まれ、母国の土も踏んだことのない子供たちが“맛(マッ、趣)”“멋(モッ、粋)”“흥(フン、興趣)”といった土着の感覚をそれなりに身につけて行くのだから、歳月が流れ世代が替わったとしてもDNAだけは欺くことができないなど、この原稿を書きながら改めて感心している。

社会人になってからは趣味としてダラダラと続けていたが、昨年、心震える出会いがあった。前職で平壤に長期出張中、崔承喜の教えを受けたことのある人物に会ったのだ。

平壤市の中心部を流れる大同江(テドンガン)の遊歩道には毎朝、60~80代のハルモニ(おばあさん)たちが朝6時頃から踊っている。

毎朝、遊歩道に出向き眺めていたところ、ひょんなきっかけで仲間に入れてもらえることになった。歌の上手なハルモニの美声に合わせて思い思いに踊るのだ。道行く人をつかまえて、「一緒に踊れ」という場面もちらほら。

踊りも楽しいが、やはり気になるのは崔承喜のこと。幼い頃、崔承喜が平壤に設立した研究所に通っていたそのハルモニの手をつかんで、幼少期の思い出を語ってもらった。最終日には「日本で崔承喜の写真を探して来い」との指令(?)まで真いた。

来年、崔承喜生誕100周年を迎える。ピカソやジャン・コクトー、川端康成など多くの文化人に愛された「東洋の舞姫」に再びスポットライトが向けられている。崔承喜を題材にした秀逸な映像作品の誕生を心から待ちわびている。その際の映像翻訳はお任せください!!!

(呉陽希、お・やんひ)

5月6日、朝鮮舞踊の歴史を集大成した金剛山歌劇団の公演が行われた時のポスター





# 西ヶ原速礼③ファイト餃子

妻は無類の餃子好きだ。店で餃子を頼んでも、気に入らないと箸をつけようとしめない。それほど差のつく食べ物とも思えないのだが。そんな妻が絶賛するのが、阿佐ヶ谷にある「なかよし」と、この「ファイト餃子」である。聞けば千葉県野田市に「ホワイト餃子」という本店があり、その系列店だとか。チェーン店のごとき浮ついたものではないので、ご安心を。

のれんをくぐると、そこはカウンター5席とテーブル席が15席ほどの小さな店内。昔は壁に大食いイベントの記念色紙が貼られていた記憶があるが、現在ははがされ、自店が取り上げられた雑誌の切り抜きが貼ってある。餃子40個とビールを注文し、待っている間、妻に他の餃子との違いを聞くと、「油っぽくなくてパリパリしているのかわいい」とのこと。

厨房には焼き場を仕切る大将とおかみさん、そしてサイドメニューや土産物を詰めるパートの女性。おかみさんに元外大生だと伝え、時々同じような客が来ると言われた。

ほどなく現れた餃子。形からして異彩を放つ俵型。餃子といえば蒸し焼きが一般的だが、ここは蒸さずひたすら焼く。食べると、熱い。そして厚めの皮がうまい。聞けばフランスパンに使われる生地を応用しているとか。あんにニンニクを使わず、数種類の薬膳をスパイスにしているそうだ。以降、ひたすら餃子とビールを追加し続ける続けること40分、ファイト餃子を堪能して店を出る。

満腹感でよろめく足。かくなるうちは歩いて消化を助けるしかない。向かうは外大跡、約2キロのウォーキングが始まった。



👉 ファイト餃子外観

👉 俵型の餃子 (店舗のHPより)

**編集後記** 3月6日の5周年パーティにご来場いただきました皆様、ありがとうございました。毎度サプライズがあるのですが、今回は大学院時代の指導教官であるM先生がいらっしゃいました。温かいご指導をいただきながら、結果を出せなかったことが、のどに刺さったとげのように引っかかっていたのですが、それもやっと取れました。それにしても、大昔に辞めた院生のためにわざわざ時間を割くなんて、どれだけいい人なんだ！【編集長代理】

## スタッフ・フキインタビュー

**フキ** **崔聖民(09年4月入社 韓国全羅南道出身)**

■フィギア通として知られる崔さん、バンクーバー五輪をどう見た？

全体的にハイレベルな戦いで、特に女子シングルは、メダリストが全員200点を超えました。五輪前に200点を超えたのはキム・ヨナと浅田真央、2人で3回だけだったわけで。

■キム・ヨナと浅田真央、勝敗を分けたポイントは？

五輪で大事なことはミスをしないうこと。そこが勝敗を分けたと思います。ただ、キム・ヨナがセーフティに滑ったわけではありません。キム・ヨナのプログラムは本当に難しい。浅田真央のトリプルアクセルばかりが注目されますが、ヨナの武器である3回転3回転ジャンプを、浅田真央は跳べません。また、キム・ヨナの3回転3回転は、3回転3回転の中でも一番ハイレベル。さらにキム・ヨナは技の前後に難しい振付を加えていて、そこで加点された。最終的に2人の間には23点の差がついたわけですが、仮に2人ともノーミスだったとしても、10点以上の差がついていたと思います。

■なんでそんなに詳しい？

きっかけはやっぱりキム・ヨナですね。06年の世界ジュニアで興味を持ち始めて、07年の東京世界選手権で、彼女のファンになりました。彼女のすごさを知りたくて、フィギアという競技のことも勉強するし、他の選手の演技も見られるようになる。フィギアの魅力は、スポーツと芸術が同時に楽しめることです。ある選手のある試合での演技が、マスターピースとして残っていく。とにかく、知れば知るほどキム・ヨナは素晴らしい選手です。

■異性として魅力を感じる選手は？

えー… (動揺)。まあ、フィンランドのキーラ・コルピとか、スイスのサラ・マイアーですかね。キム・ヨナは尊敬する人であって、異性として見ることはできません。すみません。

**W 聖元** **現在の料金** (@映像 10分)

字幕翻訳	吹き替え翻訳
15,000~18,000円	22,000~25,000円

※詳しくはホームページの料金表をご覧ください